

種名	シュレーゲルアオガエル <u>Rhacophorus schlegelii</u> 
分類	無尾目アオガエル科アオガエル属
俗称	アオガエル(モリアオガエルと混称)
形態的な特徴	体長は、オス 3.5～4cm、メス5～6cm。腹面は白色、背面は緑色で、暗褐色から鮮やかな緑色にまで変化する。指先には吸盤があり、繁殖期のオスはのどが黒くなる。アマガエルやモリアオガエルとよく似ておりしばしば混同されるが、アマガエルは鼻から鼓膜にかけて黒条があること、モリアオガエルとは目の虹彩の色が異なることから、見分け方は比較的容易である。
分布	本州、四国、九州、五島列島に分布する。
繁殖行動	繁殖期はふつう4～6月で、繁殖はおもに水田の畦や湿地の地面で行なわれる。オスは畦に掘った浅い穴の中や草の根際で「コロコロコロコロ…」と鳴いてメスを呼び、近づいてきたメスと抱接する。産卵は浅い穴や土の窪みで行なわれ、メスは直径10cmほどのクリーム色の泡状の卵塊を産む。この中には黄色い卵が300～600個ほど入っており、卵がふ化してくると卵塊はしだいに崩れ、雨などをきっかけに幼生(オタマジャクシ)は水田など近くの止水へ流れ出す。止水中で成長した幼生は、初夏には変態して上陸し、繁殖場所と隣接した林へ移動して草や灌木の上で生活する。冬眠はかなり浅い土の中やコケの下などで行なわれる。
生息場所	シュレーゲルアオガエルの生息に適した環境の一つである谷津田、あるいは谷戸田と呼ばれる浅い谷地形につくられた水田は、近年宅地開発等によって埋立てが進み、首都圏近郊では個体数が減少している。
食性	
生息環境への配慮事項	繁殖期は水辺に集まり、非繁殖期は林内で生活することから両方の環境が必要であると同時に、それぞれの環境をカエルが往復できることが重要である。例えば、水田と林の間に交通量の多い道路ができたり、水路などで分断されてしまうと移動が妨げられ、個体群の存続が困難となる。また、湿った土に産卵することで卵を乾燥から防いでいるため、土の畦がビニールで覆われたり、コンクリートで固められると産卵できなくなったり、産卵しても卵が乾燥して死んでしまう。したがって、湿地や土の畦の確保も必要となる。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	